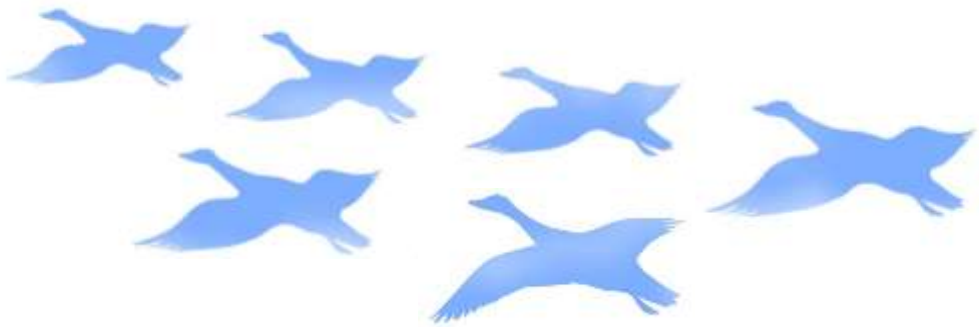


2001～2020

我孫子市環境基本計画 (改訂版)

人と鳥が共存し、手賀沼を誇れるまち
〈概要版〉



我孫子市環境基本計画の目指すもの

我孫子市の環境の課題は、自然環境、生活環境、地球温暖化などと多岐にわたります。それらの課題を一つ一つ解決しながら、21世紀のまちとくらしを展望した総合的な“まちづくり”をめざすために、我孫子市環境条例に基づき、環境基本計画を2001(平成13)年3月に策定し、市民・事業者と行政が協働して、環境の保全・復活及び創造を進める拠り所としてきました。

この“まちづくり”とは、都市としての施設や道路などの物的なモノづくりだけではなく、地域の社会、経済、歴史、伝統、文化、交流及び環境など生活の基盤となるあらゆる要素を含めたくらしそのものの創造をめざすことです。

それは、市民、事業者、行政がそのようなまちづくりの主体となることでもあります。住みやすいまちだけではなく、住んで良かったと思えるような誇りを持てるまちをめざしていきます。

我孫子市環境基本計画では、めざすまちの姿を

「人と鳥が共存し、手賀沼を誇れるまち」とし、

これを実現するために5つのまちづくりを進めていきます。

◆ 計画の期間

本計画の期間は、2001年度からの20年間とし、改訂後の計画は、2012年度から2020年度までの9年間とします。

我孫子市の環境の特徴

我孫子は、手賀沼と利根川にはさまれた台地とそのまわりに広がる低地から構成されています。かつての我孫子の地形を南北に輪切りにすると、手賀沼や利根川沿いには湿地や水田が広がり、その上部には谷津田が台地に入り込み、ため池や湧き水がありました。また、低地と台地の崖には斜面林が、台地には畑、集落、屋敷林が広がっていました。

我孫子の人々はこのような多様な環境を上手に利用して農業を営み、この営みを通して人の手が継続的に加わることで多様な環境が保たれ、豊かな生態系が維持されてきました。

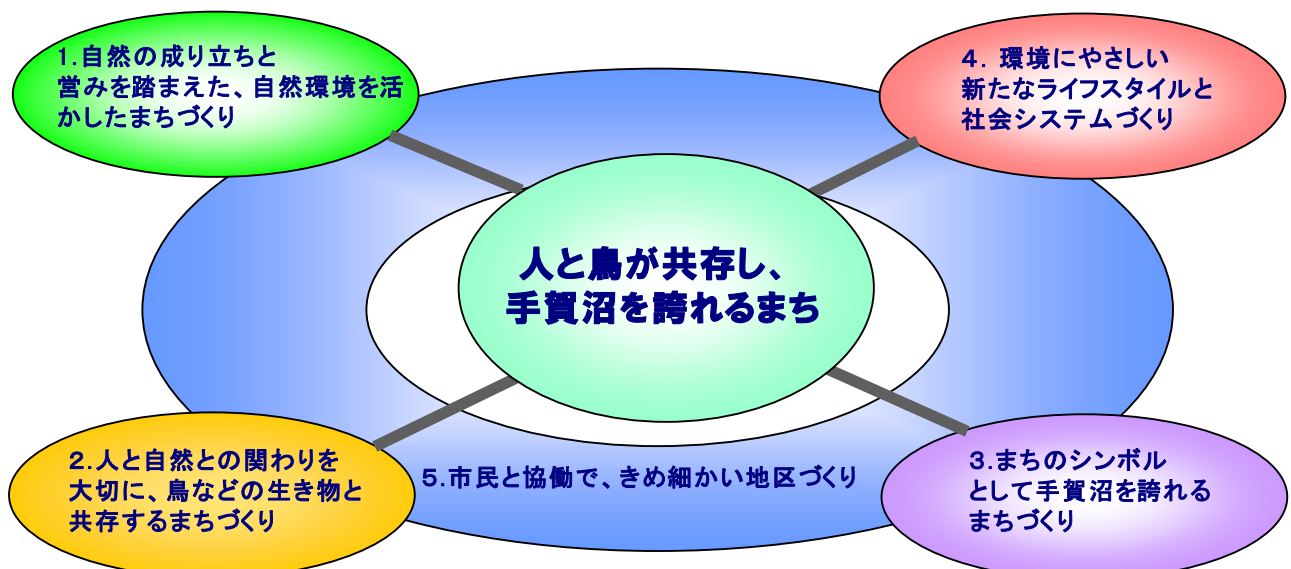
このような風景は「我孫子の原風景」と位置づけられ、この原風景を守ることは我孫子の環境の多様さ・豊かさを守ることです。

このため、我孫子の原風景を各構成要素の機能を再確認するとともに、構成要素同士の関わりや我孫子独特の自然構造を考慮に入れた、連続性・一体性を持った保全・活用を図ることが重要な課題となっています。

<我孫子の原風景のモデル構造>



環境基本計画がめざすまちの姿と5つのまちづくり



1. 自然環境を活かしたまちづくり

我孫子は利根川・手賀沼にはさまれ、住宅地となっている台地の周りには斜面林や水田が広がり、一部には谷津や湿地がみられます。このような複雑な地形の下、農村環境が形成され、多様で豊かな生態系が維持されてきました。このため、手賀沼と利根川、そして我孫子の原風景をより身近に感じられるよう<環境軸づくり>や<環境を活かしたまちの活力づくり>を進めます。

●自然環境ゾーンの形成と環境軸づくり

6つの自然環境ゾーンでは、農地、斜面林、水辺など、その特性を活かしながら、それぞれを一体的に保全・活用します。ゾーン内では<環境の拠点>を整備し、それらの拠点を結ぶ<つながり>を確保、強化することにより「我孫子の自然構造を活かした環境軸」を形成します。また、北新田や手賀沼干拓地の水田を「魅力が感じられる環境の広がり」として、我孫子の環境を考える上での骨格と位置づけます。

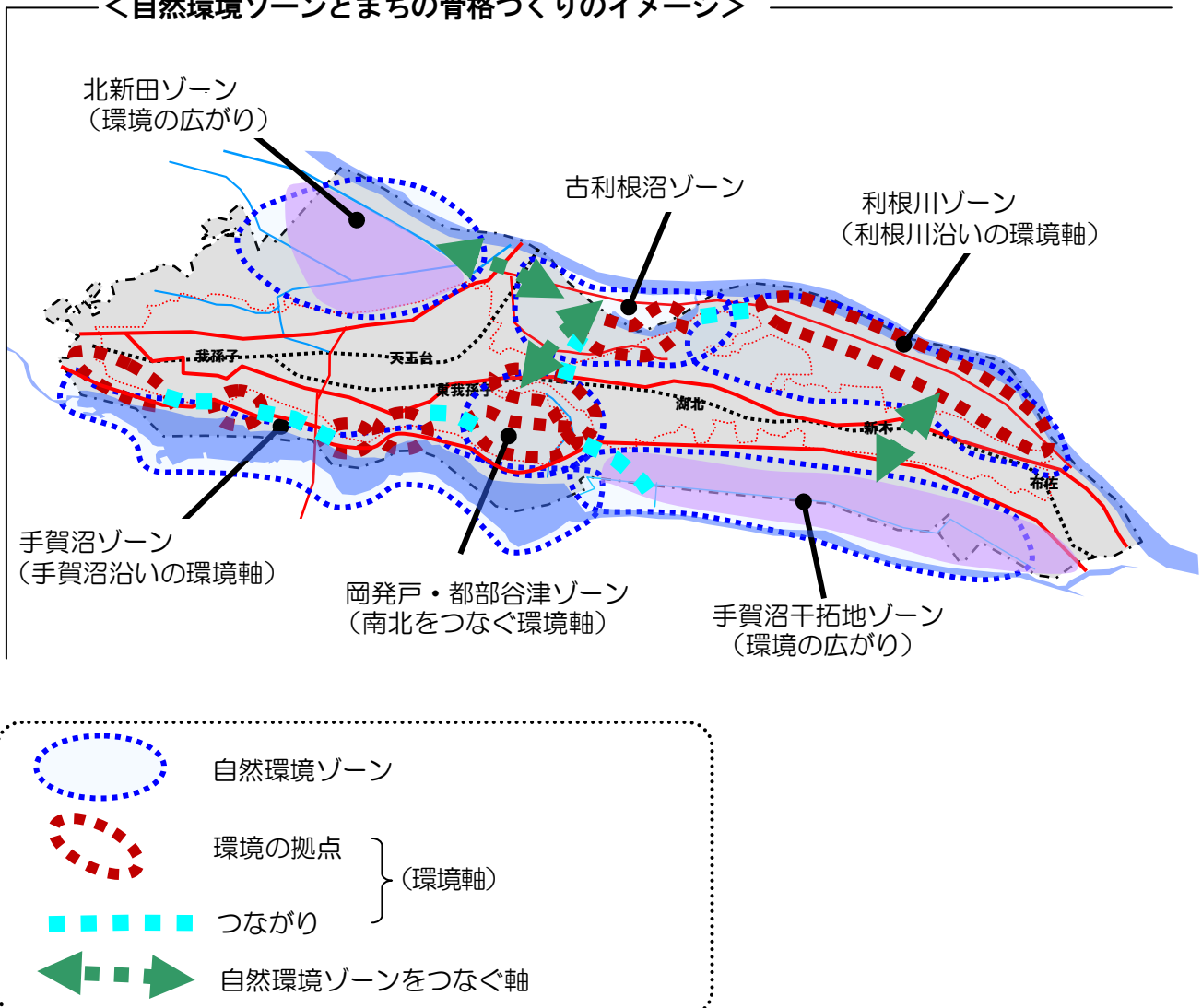
●環境を活かしたまちの活力づくり

1. 環境保全型農業を推進する/地産地消の都市農業を確立し、環境保全型農業を推進します。

2. 環境を活かしてまちの活力をつくる/

農業—環境—商業—観光の連携と相乗効果によるまちの活力づくりを進めます。

<自然環境ゾーンとまちの骨格づくりのイメージ>



2. 生き物と共存するまちづくり

手賀沼と利根川が、野鳥をはじめとする様々な生物のオアシスとして保てるように、水田・畑・樹林地社寺林などの自然環境をまち全体で保全し、多様な生物が生息する空間づくりによってくまち全体で支える環境づくりを進めます。

●まち全体で支える環境づくり

1. 生物生息空間と移動空間のネットワークづくり

公園・学校での市民と協働によるピオトープづくり、生物に配慮した街路空間や住宅地づくりなどに取組みます。

2. 台地の上から水循環の回復に挑戦する。

雨水の地下浸透を図るとともに、湧き水の復活に向けた市民と協働しての湧き水ワーキングを展開します。

3. 限られた緑の保全と復活でつながりをつける

斜面林の保全・復活、昔ながらの雑木林の復活など、緑のつながりを確保します。

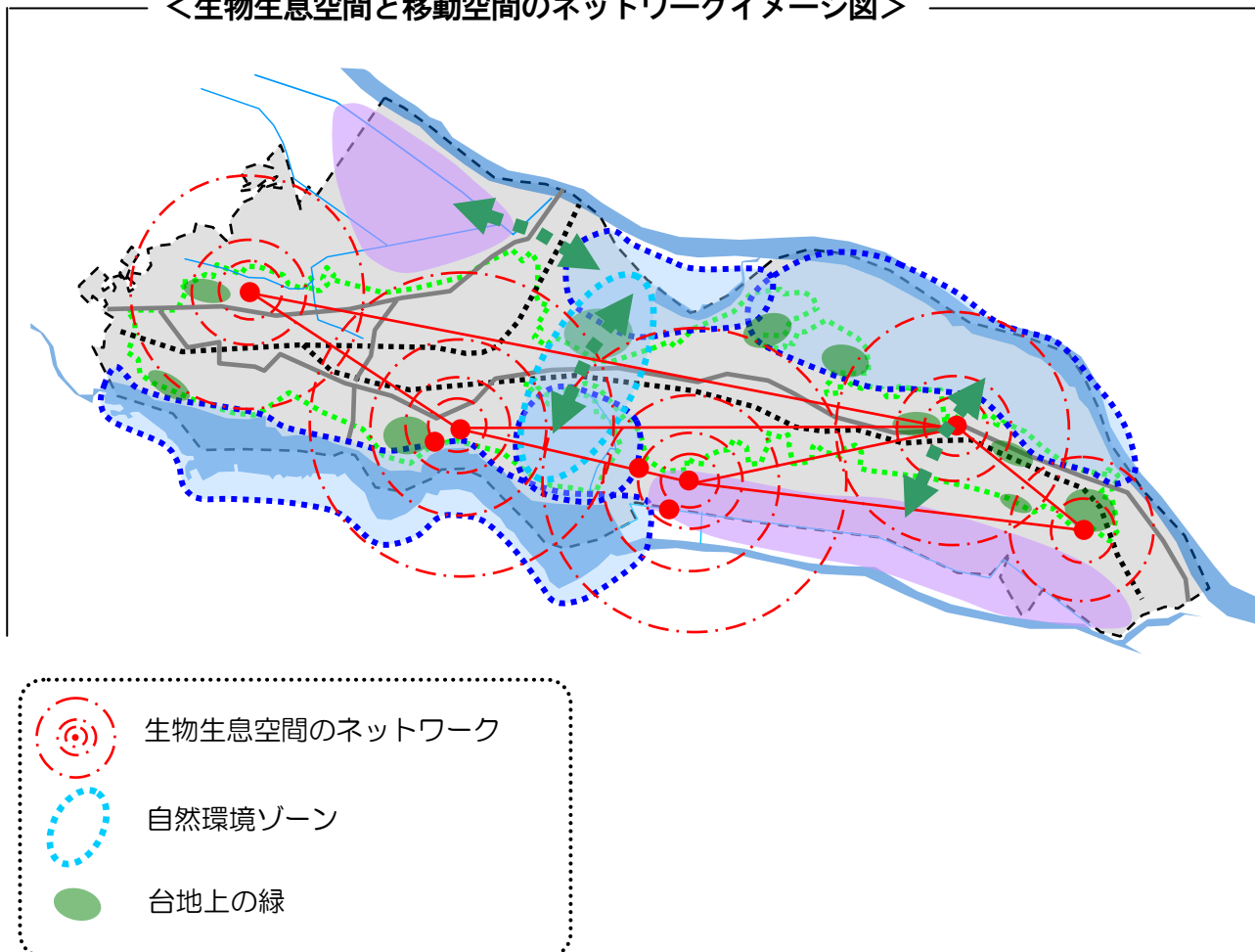
4. 人と鳥が共存するまちづくり

鳥が安心してくらせる環境づくりや、鳥をテーマとした市民参加・交流の機会づくりなどに取組みます。

5. 我孫子の地形を感じるしくみづくり

我孫子の地形が実感できる「あびこ一周八ヶの道づくり」を進めます。

＜生物生息空間と移動空間のネットワークイメージ図＞



3. 手賀沼を誇れるまちづくり

手賀沼は我孫子の環境のシンボルです。この手賀沼を思いやり、手賀沼とともにくらすことを誇れるまちづくりを進めるとともに、手賀沼の水質浄化に取り組む人々の知恵や力の輪を広げ、手賀沼流域の人々の新たな連携を築きます。

●手賀沼の水を浄化し、再生をめざす

1. これまでの水質浄化対策を継続しつつ、更なる浄化対策を進める

多様な主体による広域的な取組みを推進し、汚濁物質の削減に取り組みます。

2. 安心してふれあえる豊かで清らかな水の回復に取り組む

水循環の回復と連携した水質浄化対策の確立、環境保全型水田耕作の取組みを推進します。

●手賀沼を守り、手賀沼を活かす

1. 手賀沼本来の生物の多様性を保全する

手賀沼の保全・活用のための空間の設定、エコトーン（生態系の移行帯）の形成などに取り組み、多様な生物の復活をめざします。

2. 手賀沼とふれあい、手賀沼に学ぶ

手賀沼とふれあえる空間づくりや環境学習などのフィールドとして活用していきます。

3. 手賀沼での生業（なりわい）を支え、手賀沼を活かす

農業の多面的機能を活かした農地の保全活用、水産資源の活用、自然環境の観光資源としての活用などに取り組みます。

●手賀沼を感じ、手賀沼とくらす

1. 手賀沼を感じる市街地づくり

手賀沼の生物に配慮した市街地での生物生息空間づくり、手賀沼の四季を感じられる市街地整備などに取り組みます。

2. 手賀沼を取りまく人々の知恵と力の輪を広げる

手賀沼を取りまく市民・事業者・行政の連携の強化、協働の拡大などに取り組みます。



4. 環境にやさしい新たなライフスタイルと社会システムづくり

環境の改善のためには、市民や事業者一人ひとりの自覚と行動が重要です。このため、まちの主人公である市民・事業者が環境改善のための行動を行う<新たなライフスタイルづくり>に取り組みます。

さらに、環境にやさしい市民・事業者の活動の輪を広げ、その取り組みを支える<社会システムづくり>を進めます。

●環境にやさしいライフスタイルづくり

1. 環境への負荷を少なくする暮らしを工夫する

暮らしの中での地球温暖化対策や省エネ、水まわりの改善、環境美化などを進めます。

2. 環境にやさしいライフスタイルを創り出す

環境にやさしいライフスタイルの創出、伝統的文化・知恵の暮らしへの活用、歴史的・文化的遺産の保全・活用を進めます。

3. 環境にやさしい暮らしを学び、行動し、広げる

環境学習の機会や場の拡充、環境保全活動の実践や拡大などに取り組みます

4. 暮らしの中から快適な住宅地環境を創り出す

緑化やビオトープづくりなど、自然が感じられる住宅地や都市基盤整備を推進します。

●環境にやさしい暮らしを支える社会システムづくり

1. 暮らしをおびやかす環境問題を解決する

公害の少ない良好な生活環境を保全し、放射能汚染や有害化学物質等の新たな環境問題に積極的に対応します。

2. 環境への負荷の少ない資源循環型社会の構築をめざす

廃棄物の発生抑制、資源化、再生品の優先的利用の推進や、資源化促進のための新たな資源循環型システムづくりに取り組みます。

3. 健全な水循環システムの回復をめざす

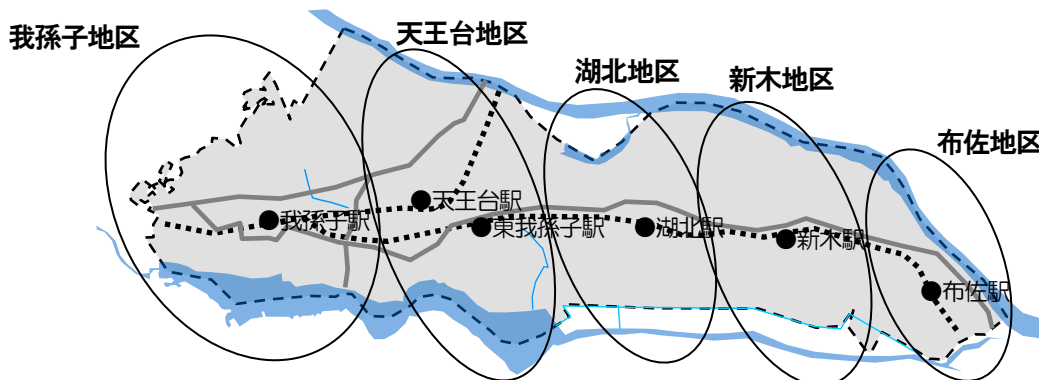
市民と協働で湧き水ワーキングによる湧き水の保全・復活、雨水の地下浸透や有効利用等の施策を推進します。

5. 環境を支えるきめ細かい地区づくり

— 地区の活動で環境を創り出そう —

我孫子は東西に細長い地形で、まちの成り立ちやまちを取り巻く環境は各地区でそれぞれ特徴があります。

また、各地区は人々の暮らしと空間として身近であり、自らが誇れるまちづくりを実践できる場所です。このため、市民・事業者と協働し、各地区の魅力を再発見し、活用していく取り組みをすすめます。



【地区づくりの基本的方針】

我孫子地区

- 自然環境を感じ、学べる根戸小学校周辺の樹林地を地区の拠点とする
- より緑あふれる住宅地づくりのため、市民が協働できるしくみをつくる
- 農村と市街地の交流で、農村の風景を守るしくみを創り出す
- 広々とした水田での多様な生物との出会いを大切にす
- 歴史的・文化的遺産と緑豊かなまち並みを活用し、新たな交流の輪を広げる

天王台地区

- 環境の拠点にふさわしい近隣公園とし、身近な自然空間を創り出す
- 小中学校での環境学習と連携し、地区での交流ができるサブ拠点をつくる
- ふれあい工房を活用して、リサイクル活動の輪を広げる
- まちの風景づくりのためのしくみとつながりをつくる
- 豊かな自然の中で、ふれあえ、学べるしくみをつくる

湖北地区

- 街区公園・学校でのピオトープネットワークで、地区の拠点機能をつくる
- 着実な市民活動の輪を広げ、誇れるようなくらしと緑のまち並みをつくる
- 集落の中の道や里道を活かして新たな散策の道づくりを工夫する
- 古利根沼の森で、様々な人々が関わる雑木林づくりを進める
- 農業が育む生物との出会いのしくみをつくる

新木地区

- 気象台記念公園を活用した地区の新たな環境の拠点をつくる
- 地区の宝である葺不合神社周辺を活用した自然観察の場をつくる
- 新たな市街地形成で、まちを演出する工夫を行う
- 地道な努力を重ねている農業との連携・交流を進める
- 布湖排水路沿いの散策ルートで、自然とのふれあい空間をつくる

布佐地区

- 竹内神社・宮ノ森公園などを自然環境の核となる拠点とする
- 浅間前・布佐下で市民が守り育てる環境づくりの輪を広げる
- 市民主体の活動の広がりにより、住宅地の緑のつながりをつくる
- 湿地・水田の生物を育み、魅力を再発見できるしくみをつくる
- 利根川の風景と広がりを感じられる工夫を行う

環境基本計画を推進するために

我孫子市の環境基本計画は、市民・事業者等と意見交換を行いながら推進していきます。また、市では環境基本計画の実効性を高めるために計画の進行管理を行い、この内容を公表し、市民・事業者が連携しながら点検と評価を行っていきます。

さらに、環境情報を的確に収集し、市民・事業者へ積極的に情報を提供していきます。